



第63回 神宮式年遷宮
感激の御木曳奉仕



発行所 No.303
箱根神社社務所
神奈川県箱根町元箱根 80-1
〒250-0522 電話 0460 7123

頻発する震災や多発する台風が齎す集中豪雨や急襲発生する局地的大雨など季節を選ばぬ地殻変動や天候の乱れによる数多の被災地の健全着実なる復興と被災されその復興に日々頑張りが続けられている皆様方への穩かな日々の到来を衷心より祈念申し上げます

天皇陛下には、本年一月五日御造営開始の祭儀である「木造始祭」の時を御治定になられ、祭典は正宮をかきりに十四の別宮において次々で行われ、それに先立つ四月十二、十三日には、御造営用材を神域に搬入する「御木曳初式」が、地元奉曳団（旧神領民）の皆様により木遣音頭も勇ましく執り行われ、御用材が両宮に曳き入れられました。これに続いて、神宮御当局や地元奉曳団のご配慮により特別神領民として私共の参加奉仕が許される「御木曳行事」が本年から明年の五、六月に行われます。私共が式年遷宮行事に直接奉仕が叶う感激の行事です。

当神社の奉曳団は、去る六月四日に二見浦の二見御玉神社に浜参宮して心身を清め、翌五日外宮の御木曳行事奉仕に臨みました。そして、感激のご奉仕の後「次は令和十五年の御白石持行事のご奉仕に！」を合言葉に喜び勇んで帰路につきました。

この御白石持行事とは、新築なった御正殿の周囲に、一人がひとつずつ新しい白い石を敷き納めてゆく行事で、遷御直前の御正殿を間近に拝する事が出来る大感激の行事です。是非一緒にご奉仕に参りましょう。

こうして感激の御木曳行事を修めますと、明年には全国各地で式年遷宮奉賛会が発足し募財活動が本格的に始まります。皆様には、令和十五年十月の式年遷宮完遂に向けて、赤誠溢る、奉賛募財を共にお進め願います。

思い起せば、今般完遂した平成の御代から令和の御代十期十四年に亘る当神社の奉祝記念事業の進発は、前回の第六十二回神宮式年遷宮遷御の佳日を秋に迎える平成二十五年の元旦に龍神水舎が竣功し、同年十月第六十二回神宮式年遷宮のめでたき完遂を迎えて、愈々当神社奉祝記念事業の進発となりました。

かくして、平成の御代から令和の御代十期十四年に亘り進捗し、令和八年六月二十二日の吉日に最終記念事業完遂奉祝記念事業完遂奉祝会を恙無く齎行する事が出来ました。

これも偏に、私共社職と総代さん、氏子・崇敬者の皆様から、設計施工全ての工事関係者の皆様に至るまで、記念事業に係わる全員が、心一つに取組み進む姿と篤志とが、神々の御神慮に添い得て頂けた、大きな御加護の賜物と存じます。

皆様の赤誠溢る、ご奉賛と、ご奉仕の真心に、衷心より感謝と御礼を申し上げます。洵に有難うございました。

(宮司 小澤修二)

式年遷宮 御木曳行事奉仕に続き
記念事業完遂奉祝祭の齎行

式年遷宮 御木曳行事奉仕に続き
記念事業完遂奉祝祭の齎行

曾我神社例祭で傘焼神事
―曾我兄弟の御神前で居合奉納―



曾我神社例祭で傘焼神事（5月28日）



錬士六段ブラッド氏による居合奉納

新緑の五月二十八日、曾我十郎祐成・五郎時致兄弟二柱命をお祀りする曾我神社では、氏子崇敬者、居合道剣士各位の参列のもと例祭が盛大に齎行されました。

鎌倉時代の建久四年（一一九三）、源頼朝が行った富士の巻狩で、五月二十八日、曾我兄弟が父の仇を討ち見事本懐を遂げました。

祭典では宮司による祝詞奏上の後、曾我兄弟が討入りの夜、松明

の代わりに傘を燃やして照明とした故事に倣い忌火で傘を焼きあげる「傘焼神事」が行われました。

続いて小田原市剣道連盟居合道部・田宮流教士七段の鈴木健二氏による宝刀拝観が行われると、参列した数多の剣士達を代表して、御神前奉納のため、遥々ベルギー王国から来日した田宮流ヨーロッパパベルギー本部揚羽蝶会錬士六段のリビュブラッド氏による熱誠溢れる勇壮な居合道の演武が奉納されました。（権禰宜 春原幸夜）



九頭龍神社新宮例祭（4月29日）

九頭龍神社の祭り
九頭龍神社新宮例祭

四月二十九日、昭和祭に続いて午前十時より、境内社の九頭龍神社新宮の例祭が齎行されました。

新宮の例祭は、六月十三日の九頭龍神社本宮例祭、七月三十一日の湖水祭と共に九頭龍大神の重要な祭りであり、当日は晴天に恵まれ、大勢の参列者と共に九頭龍大神に平素の感謝の心を捧げ皇室国家の安泰と氏子崇敬者を始めて全国民の安寧を祈願して盛大裡に行われました。

(権禰宜 伊藤政好)



九頭龍神社本宮例祭（6月13日）

六月十三日午前十時より芦ノ湖心の汀に鎮座する九頭龍神社本宮で例祭が齎行されました。

本年も一一〇余名の皆様と共に、九頭龍大神の平素の御神徳に感謝して変わらぬ御加護を祈願し、続いて湖上安全と、御祈祷申込みの方一人ひとりの所願成就が祈願されました。

次に、宮司が九頭龍大神に感謝の心を捧げて米・酒・スルメ・卵を九度に分けて湖水に献じる湖水神事が行われました。続いて十一時に弁財天社例祭、十一時半に白龍神社例祭が齎行されました。

(出仕 浅原 幹)



設計施工代表
元請白岩建設(株)様



責任役員 総代代表
総代長川辺隆夫様



奉賛者代表
小澤 幸市 様



表彰式



開会の辞
総代長川辺隆夫



祝杯のご発声は
箱根町観光協会 理事長
勝俣 伸様



宮司謝辞
箱根神社
宮司 小澤修二



祝 辞
神奈川県神社庁長
石川 正人 様



祝 辞
箱根町長
勝俣 浩行 様



謝 辞
白岩建設株式会社
代表取締役大草和美様



舞楽「振鈴」



舞楽「賀殿」の祝舞



来賓 特別奉賛者による鏡開き



閉会の辞
総代川口延明



(権宮司 中島 正臣)
権彌宜 新井 賢



奉祝記念事業完遂奉告祭(御本殿)



十期十四年奉祝記念事業完遂の碑

六月二十二日午前十一時より、御本殿にてご来賓を始め、特別奉賛者、建設関係者等ご参列のもと十期十四年奉祝記念事業完遂奉告祭が盛大に斎行され記念碑も披露されました。祝賀会は祭典に続いて、午後一時から湯本富士屋ホテルにて開催され、記念事業完遂に至る功績を讃え、特別奉賛者、氏子総代、設計施工業者の方々に感謝状が贈呈されました。是を以て第一次・第二次・第三次と十期十四年に亘る奉祝記念事業のすべてがめでたく完遂を迎えました。ご一緒にお進みいただきました皆様に衷心より感謝と御礼を申し上げます。

奉祝 十期十四年記念事業完遂奉告祭全祝賀会



大きな声援が飛びかうなか外宮宮域へ



外宮を目指す奉曳団の一行



奉曳団全員で白綱を手にとり御木曳を奉仕



豊受大神宮（外宮）で御垣内参拝



外宮北御門に到着し全員で万歳三唱



皇大神宮（内宮）で御垣内参拝



「エンヤ！」の掛け声で記念撮影の箱根神社奉曳団

第六十三回神宮式年遷宮 諸祭行事日程一覧

令和七年	山口祭（やまぐちさい） 木本祭（このもとさい） 御船始祭（みふねはじめさい） 御船代木奉曳式（みふねしろえいしき） 御船代祭（みふねしろさい）
令和八年	御木曳初式（おきひきぞめしき） 木造始祭（きづくりはじめさい） 御木曳行事（おきひきぎよつじ） *全国の特別神領民も参加できます 仮御樋代木伐採式（かりみひしろえいしき）
令和九年	御木曳行事（おきひきぎよつじ） *全国の特別神領民も参加できます
令和十年	鎮地祭（ちんちさい）
令和十一年	宇治橋渡始式（うじはしわたりはじめしき）
令和十四年	立柱祭（りちゅうさい） 御形祭（ごぎようさい） 上棟祭（じょうとうさい） 檐付祭（のきつけさい） 蓋祭（いらかさい）
令和十五年	お白石持行事（おしろいしもちぎようじ） *全国の特別神領民も参加できます 御戸祭（みとさい） 御船代奉納式（みふねしろほうのうしき） 洗清（あらいきよめ） 心御柱奉建（しんのみはしらほうけん） 杵築祭（きつきさい） 後鎮祭（ごちんさい） 御装束神宝誦念（おんしやくんぎんねん） 川原大祓（かわらのおおはらい） 御飾（おかしり） 遷御（せんぎよ） 大御饗（おおみけ） 奉幣（ほうへい） 古物渡（こものわたし） 御神楽御饗（みかぐらみけ） 御神楽（みかぐら）

第六十三回 神宮式年遷宮 御木曳行事を奉仕 | 箱根神社奉曳団 |



第63回神宮式年遷宮「御木曳行事」の奉曳車

六月五日、箱根神社奉曳団の一行が三重県伊勢市に赴き、神宮式年遷宮の「御木曳行事」を奉仕致しました。御木曳行事とは、御造営の御用材を宮域内に運び入れる行事であり、当社奉曳団は足柄下郡氏子総代会と共に特別神領民として豊受大神宮（外宮）の御木曳（陸曳）に参加奉仕致しました。午前九時半、奉曳団の一行は、御用材を積んだ奉曳車から伸びる白い綱を各自手に取り、勇壮な木遣歌に導かれて宮町から外宮北御門までの約一キロの道程を、大きな掛け声と共に奉曳しました。奉曳後には、豊受大神宮（外宮）、皇大神宮（内宮）の両宮での御垣内参拝を行い帰路につきました。



奉曳車（二番車）前での結団式



奉曳車から伸びる白い綱を各自手に取って出発を待つ奉曳団一行



勇壮な木遣歌で奉曳出発



（権宮司 柘植英満 権禰宜 土屋慶之）

約4トンの奉曳車をひく514名の奉曳団



奉曳前日の浜参宮（二見興玉神社でお清め）